

印象記

RSNA1998年印象記

町田喜久雄

埼玉医科大学総合医療センター 放射線科学教室

1998年11月29日から12月4日まで、例年のごとくミシガン湖畔のMcCormick Placeで開催された。会長は胸部レントゲンの教科書で日本にも有名なD. B. Fraser先生である。

今年の標語は“Science to Practice”である。

演題数はscientific paperが1,636題、scientific exhibitsが1,089題、refresher courseが275題、器械展示が600以上と、例年のごとく大変多かった。

会場は昔の黒い湖畔の建物に、同じ位の大きさの北ビルと南ビルが加わり、はじめからはじまで、歩くと15分は掛かる広大な場所となった。

以前新宿駅で学会をやっているようだったと思ったが、今回は東京駅で学会をやっているような気がした(図1:会場入り口、図2:会場内連絡アーケード)。

演題は大まかに会場別にすると、乳腺、心血管、胸部、消化器、泌尿生殖器、筋肉・骨、神経、核医学、小児、物理、治療、エコーなどである。

方法論的には、X-CT、MRI、PETが主なものである。一部にフィルムレスの動きも少しあるようだったが、しかしこれには不透明な部分が大きく、まだ研究段階のような気もした。

開会セッションは、McLoud TCによる心臓イメー



図1 RSNA 新会場入口付近

ジであった。MRIとCTの応用が紹介された。これらが非観血的であることが強調されていた。

New Horizon LectureはImaging and Information in the 21st Centuryと云う題でJaffe CCが行った。

診断関係のAnnual Orationは、結腸・直腸の画像診断であった(図3:会場風景、図4筆者:アーケードの芸術作品の前で)。また、腹部のMRI診断もかなり定着して来たことを示す演題が多かった。

放射線腫瘍関係のAnnual Orationは、中枢神経



図2 会場内アーケード。5階位までの吹き抜けで、エスカレータとエレベータがある。



図3 Arie Crown Theater (一番大きな会場)



図4 会場アーケードの彫刻の前で。アメリカらしい芸術作品があちこちにある。



図5 International Museum of Surgical Science

であった。司会はShaw EGが務めた。

他にシンポジウムでは、Diffusion-Perfusion MRがあり聴衆も多かった。これからのMRIの進む可能性の一つを示すものであろう。

核医学腫瘍関係では、肺癌術後の再発診断におけるTl-201-SPECTの有用性が、また、ホジキン病ではTl-201よりもGa-67の方が優れているとの発表があったが、これには日本の核医学者もほぼ賛成だと思う。

全体の放射線科医の登録数は2万人だそうである。10年位前に留学してお世話になった英国ハマスミス病院のAllison教授に会場でばったり合うことができた。このように世界中から人が集まるので、関連メーカーの登録者を含めると6万人だそうである。断層映像研究会に比べるのもどうかと思うけれど、本研究会のような小さな家族的な研究会はそれなりに有意義だと思う。

日本人の出席者も多く、放射線科医だけでも200-300人は登録していたような気がする。それから特に若い人も多かったように思った。

日本人出席者のために、会場に昼食サービスをしてくれた造影剤と器械メーカーの会社があり、非常に助かった。

器械展示では、日本の大メーカーやフィルム会社はそれぞれ相当に大きなブースを占めていたような気がする。

日本を離れて1週間放射線医学に浸かっていると、色々な考えが浮かんで来て、それなりに有意義な時を過ごすことができたような気がする。

ただいつも思うのだけれど、シカゴのホテル事情は余り良くなく、それとシカゴの寒さが欠点である。年を取ると余計それが負担になる。ただし今年のシカゴは異常に暖かく助かった。なんでも12月では史上最高気温を記録したそうである。なにしろ、ミシガン通りをTシャツで歩いている若者がいた。

小生の泊まった北の方のアンバサダー・ホテルの近くに国際外科博物館という小さな博物館(図5、入館料5ドル)を見学した時、今世紀の初め頃のクック・カウンティ病院の不鮮明なX線写真の写真を見たが、それに比べて現代の技術の進歩のすばらしさを、しみじみと感じた。

小春日や ミシガン湖畔 そぞろなり (雪月花)
(1998年12月18日記)

ダウンロードされた論文は私的利用のみが許諾されています。公衆への再配布については下記をご覧ください。

複写をご希望の方へ

断層映像研究会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。

本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けて下さい。但し、企業等法人による社内利用目的の複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター（(社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体）と包括複写許諾契約を締結している場合にあつては、その必要はございません（社外頒布目的の複写については、許諾が必要です）。

権利委託先 一般社団法人学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

複写以外の許諾（著作物の引用、転載、翻訳等）に関しては、(社)学術著作権協会に委託致しておりません。

直接、断層映像研究会へお問い合わせください

Reprographic Reproduction outside Japan

One of the following procedures is required to copy this work.

1. If you apply for license for copying in a country or region in which JAACC has concluded a bilateral agreement with an RRO (Reproduction Rights Organisation), please apply for the license to the RRO.

Please visit the following URL for the countries and regions in which JAACC has concluded bilateral agreements.

<http://www.jaacc.org/>

2. If you apply for license for copying in a country or region in which JAACC has no bilateral agreement, please apply for the license to JAACC.

For the license for citation, reprint, and/or translation, etc., please contact the right holder directly.

JAACC (Japan Academic Association for Copyright Clearance) is an official member RRO of the IFRRO (International Federation of Reproduction Rights Organisations).

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

E-mail info@jaacc.jp Fax: +81-33475-5619